

iPod とのシンクロ

第3章でデジタル化した楽曲を編集して、iTunesに登録するところ迄を説明しました。この章ではiPodへのシンクロ方法について説明します。ここではiPodは既に登録済みとして扱っております。

1. iTunesの設定/iPod

iPodへの楽曲の登録はiTunesで行います。まず最初にiTunesを起動させ、iPodをMacに接続します。

iPodが接続されると、iTunesが自動で前回の同期内容を照合して最新内容に置き換えます。同期が完了するとライブラリーメニューにデバイスメニューが追加され、この中にiPodが登録された名前で表示されます。

iPodアイコンを選択すると設定画面が表示されます。





●オプション

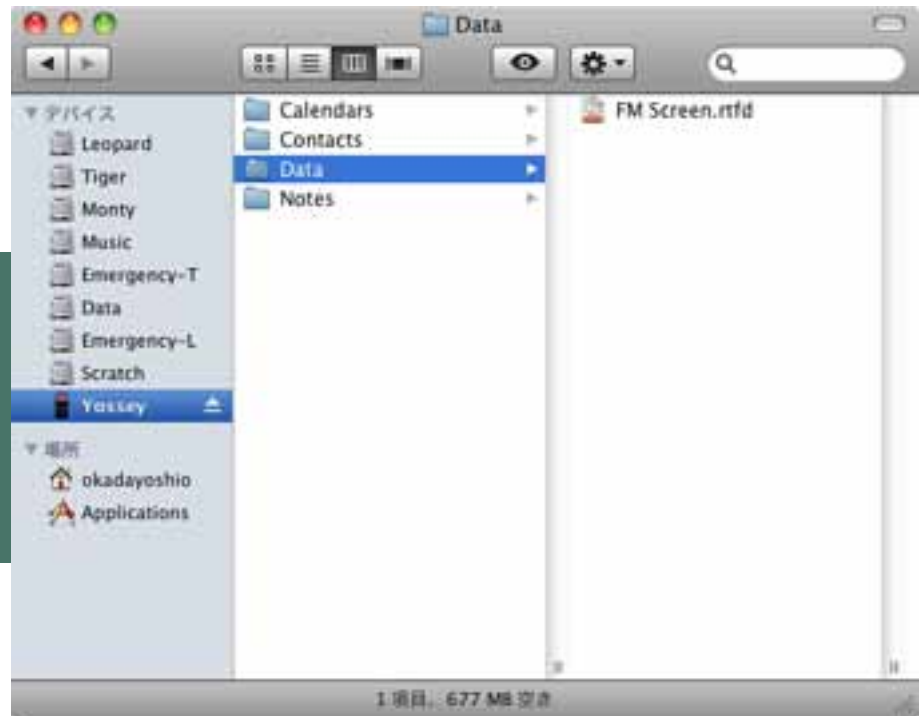
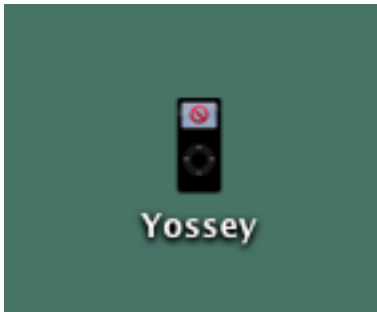
「このiPodの接続時にiTunesを開く」をチェックします。

「チェックマークのある曲だけを同期」をチェックします。

このオプションを選択すればiTunesで曲名の前にチェックマークのついた楽曲のみが同期されます。iPodから登録を解除したい楽曲がある場合は、iTunesでチェックを外しiPodを接続して同期させます。

「音楽を手動で管理」

上記「チェックマークのある曲だけを同期」のチェックを外し、この項目をチェックすれば手作業で同期・非同期が行えます。iPodへの登録曲数が増えてくると作業に時間がかかります。小生は面倒なので自動を選んでいきます。



「ディスクとして使用する」

この項目がチェックされていると、iPodを接続した時にデスクトップにマウントされます。この中にデータを入れ持ち運びが可能です。書き込みされたデータはiPod上では非表示になります。

<注意>

このオプションを利用して他のMac & Windows PCに接続すると以下のアラートが表示されました。



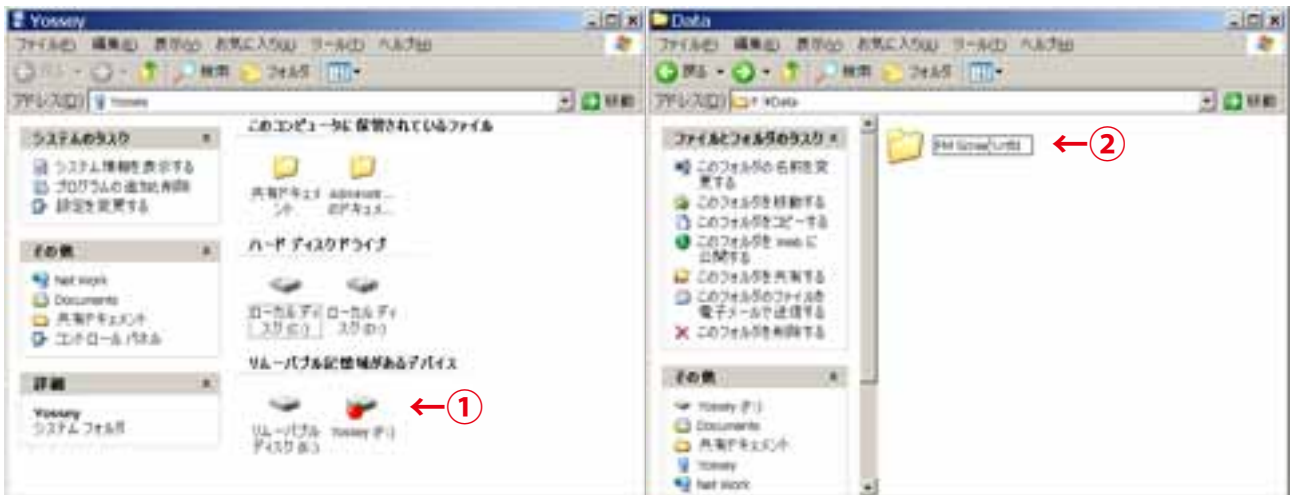
「お使いのiPodはWindowsで再フォーマットする必要があります。今iTunesを実行しますか？」

小生のiPodはMacフォーマットなのでこのアラートが出ました。

Let's NoteにiTunesがインストールされていますので「今iTunes……云々」となりました。もし、iTunesがインストールされていないと「このUSBドライブは使用出来ません。フォーマットしますか？」のアラートが表示されるはずです。

幸い、第1章で書きましたようにLet's NoteにはMacフォーマットを認識させるユーティリティー「Mac Drive 6」をインストールしていますので、USBドライブとしては問題なく表示されました。

このアラートに対しては、当然「キャンセル」しました。



- ① Drive「F」にリムーバブルデバイスとして認識されたMacフォーマットのiPod (Yossey)
- ② これを開きDataフォルダーに保存した「FM Screen.rtf (J-Editのリッチテキストファイル)の拡張子「.rtf」はWindowsでは認識されないのでフォルダーになってしまった。
- しかし、拡張子を「.txt」に書き換えると、問題なくテキストデータとして開くことは出来た。

以上の実験から iPod を他のコンピューターに接続するには、万全な対策と注意が必要であることが解った。小生はMac ProとPM G4でiPod & iPhoneを共有しているが、両機ともにiTuneデータを置くドライブ名を揃えているので、上記アラートは発生しない。

但し、iTunes Music StoreからDL購入した楽曲はプロテクトがかかっているため、iTunesへの登録の際にユーザーIDとパスワードを要求される。Appleが楽曲に課しているコピー制限は「5回書き込み/同一ユーザー」なのでこの範囲であれば著作権に抵触しない。

2. iTunesの設定/iPhone

長年愛用してきた携帯電話「Infobar」が退職後まもなく壊れてしまった。持ち主に殉職したようです。乃木大将みたいに……。在職中は外出先からFaxを送ることが多く、InfobarだけがFax Modemとして利用できる最後の携帯電話でした。バッテリーの製造中止が怖いので、バッテリーを3台買い込み、ローテーションを守ってきたのですが、酷使に耐えかねたようです。……合掌。退職後は外出先からFaxを送る必要もなくなったので、迷わずiPhoneを購入しました。番号ポータビリティ制度を利用し、以前の番号をそのまま継続しました。この制度は便利なようで犠牲が大きいことを痛感させられました。①auに貯っていた約7,000ポイントが没収された。②auに番号ポータビリティの手数料2,000円を取られた。③おまけにSoft Bankにまで番号ポータビリティの手数料2,000円を取られた。都合11,000円の手数料になってしまった。誠に痛い買い物でした。これから番号ポータビリティ制度を利用して、キャリアを乗り換えようと考えておられる方は、十分な事前準備をなさることをお勧めします。



iPhoneをiTunesに読み込ませた。デバイスに「Paul (iPhoneの名前、大好きなベーシスト、Paul Chambersからとった)」として認識された。

このリストは「11 Japanese (歌謡曲)」のもので、1～18迄、全曲タイトルが判れば貴方は関西人。メールでお知らせ戴ければ粗品を進呈します。奮ってご応募下さい。

●概要

iPodと全く同じです。↓



●情報

電話と音楽しか使用しないのでシンプルです。



●アプリケーション

邪魔なアプリケーションが捨てられず、2 頁目に移動しました。





●ミュージック

これも iPod と同じ。残りのムービー、テレビ、Podcast、iTunes U、写真は全て使わないので機能を止めています。

●聴き比べ

Apple ではアンプの性能については公表されていない。「周波数特性: 20Hz ~ 20,000Hz」とあるだけ。あとは先入観を抱かず自分の耳で聴き比べるだけ。序でに手持ちのイヤホンも取り換えて試してみた。

テスト曲: Lover Man

ソース: Audio Labo ALT-38 "Side by Side Vol. 2"

2T/38 Master Tape を Sound it で 44,100/256kbps にトラックダウン

録音: 菅野沖彦

演奏: 八城一夫トリオ

八城一夫, Piano; 潮先郁夫, Guitar; 原田政長, Drums

イヤホン試聴感想

機種	評価	コメント
 <p>ELEGA DR592CII</p>	標準	<p>長年使い馴染んだ ELEGA のダイナミックヘッドフォン。デジタル時代になっても遜色はない。これを標準としてイヤフォンを聴き比べた。</p> <p>[主な仕様] 密閉ダイナミック型、インピーダンス：8Ω、DR：110dB 再生周波数帯域：20～20,000Hz、最大入力：100mW</p>
 <p>AKG K14P</p>	△	<p>オーストリアの名機、AKG。哀話のカセットプレーヤーで使っていたもの。iPod に繋いでもやはりドンシャリ型。音漏れが気になり、外で使えない。</p> <p>[主な仕様] ダイナミック型、インピーダンス：17Ω、DR：108dB 再生周波数帯域：17～23,000Hz</p>
 <p>Audio Technica ATH-CK7</p>	○	<p>Audio Technica のカナルタイプ。AKG の高域を持ち上げた感じ。やや中抜け。エージングを済ませても変化なし。長時間使用は疲れる。</p> <p>[主な仕様] ダイナミック型、インピーダンス：16Ω、DR：108dB 再生周波数帯域：12～24,000Hz</p>
 <p>Apple MA662G/B</p>	△	<p>iPod Nano の付属品。付属品に文句は言えない万人向け。これも音漏れで外で使えない。ケーブルはしなやかで良い。即、お蔵入り。</p> <p>[主な仕様] ダイナミック型、インピーダンス：32Ω、DR：不明 再生周波数帯域：20～20,000Hz</p>
 <p>JBL Reference 220</p>	◎	<p>小生にはやはりこれ。最高域は AKG & Audio Technica に劣るが中・高域は良く伸びる。良くも悪くも JBL サウンド。2台紛失し、目下3台目。</p> <p>[主な仕様] ダイナミック型、インピーダンス：16Ω、DR：94dB 再生周波数帯域：20～20,000Hz</p>

手持ちのイヤホン全てを聴き比べてみた。こればかりは個人の好みの問題で自己満足も多分に含まれる。試聴する楽曲により判断は分かれる。

最近音漏れの少ないカナルタイプが一般的になってきた。音漏れがしないと云うことは反対に外部の音が聞こえ辛いに通じる。ボリュームを上げ過ぎると周りの音が全く聞こえない。ボリュームはそこそこに。さて、懸案の iPod Nano と iPhone 3G の音質の差ですが、iPhone 3G の方が音に厚みを感じられます。周波数特性、インピーダンスとも同じなのにこの差は度か何処から来ているのか、色々探るとオーディオコーデックの違いから来るものらしい。iPod Nano は Cirrus Logic 社、iPhone 3G は Wolfson Microelectronics 社とベンダーが違っている。この違いがバッテリー容量とも相まって音質に作用しているらしい。



余談だが、イヤホンのイヤパッドはすぐに脱落する。予備のパッドを常備在庫されている方もおられます。特にカナルタイプはイヤパッドがなければ使い物にならない。そこで小生のイヤパッド脱落防止対策を披露しておきます。

イヤパッドを外側に反転して絹糸で縛った。
これ以降、脱落・紛失なし。
是非一度お試しを。

今までポータブルは哀話のカセットプレーヤー + AKG イヤホン K14P (アナログ) で聴いてきた。プレーヤーを iPod + JBL Reference 220 (デジタル) に変更してから気付いたことがある。それは「雑音が目立つようになった」と云うことです。

アナログの頃は「レコードにはスクラッチノイズ、テープにはヒス音は付きもの」と云う観念があり、イヤホンも開放型なのであまり気にならなかった。デジタル変換し、イヤホンもカナル方式に替えるとレコードのスクラッチノイズやテープのヒスノイズがとても耳障りになってきた。これはイヤホンの密着度が上がり、音漏れが少なくなった性だと思われる。

気になり出すと居ても立ってもいられなくなるのが小生の性分。アナログソースから取り込んだ楽曲ファイルを、波形編集ソフト Sound it で様々なフィルターやイコライザー処理をして雑音除去を試してみた。いろんなゲイン設定で試した結果、雑音感度を上げると同じ帯域の音がスッパリなくなる。特に一定幅の音域で発生するテープのヒスノイズにイコライザーをかけた時が顕著で、極論すればボーカル曲が MM1 になるものもある。

レコードのプチノイズ(音溝にカビが生えスタイラスでのトレース時に発する音)の場合も程度差はあるがイコライザーをかけた帯域の音量が下る傾向がある。どうやら波形編集ソフトのイコライザー処理とは設定した帯域のゲインを一括して下げるものらしい。これでは楽曲のイメージが壊れてしまうので、イコライザーをかけても気にならない楽曲かどうかをその都度試してみるしか方法がない。これでは本来の雑音の除去とはほど遠いのでイコライザーに頼らない方法を見い出せなければならない。

困ったときのWeb頼みで、色々検索した結果、「雑音は元で断つ」のがセオリー、失敗しない方法だと知らされる。この「元で断つ」とはどのような処理かと云うと以下のような説明があった。

1. レコードのスクラッチノイズ

これは音溝に溜まった埃が原因なので、レコードを中性洗剤で洗浄する。

2. レコードの針飛び

音溝に傷がつきスタイラスが跳ねる。同じ音を繰り返す(=比喻:壊れたレコード)
爪楊枝で音溝を作る。ルーペで見れば解るが壊れた音溝は隣の音溝がせり出し、溝幅が狭くなっている。爪楊枝でスタイラスのトレース方向に向け狭まった溝幅を広げれば針飛びはなくなる。このときトレース方向と逆に削るとスクラッチノイズが増大するので要注意。音声は音溝の左右に刻まれており片方に傷があっても、もう片方で再生される。但し、完全に削り取られた音溝は復元できない。

3. テープのヒスノイズ

走行するテープが接触する金属分、消去、録音、再生ヘッド、テープガイド、キャプスタンガイド等の消磁と清掃。テープの非磁性面の清掃。

以上のような体験談があったので早速試してみることにした。但し、ヒスノイズについては既に実行していることなので省き、レコードのみの実験とする。結果は次号にて報告。乞う、ご期待。

